

Quality is more than a word

ESPEC

第 **59** 期

中間株主通信

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで



目次

株主のみなさまへ：TOP MESSAGE	1
特集	3
TOPICS	6
連結業績の推移	8
部門別概況	9
要約財務諸表(連結)	11
株主アンケート結果のご報告	13
会社の概要・役員	15
株式の状況・株主メモ	16

株主のみなさまへ

みなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第59期(平成23年4月1日～平成23年9月30日)における業績ならびに取り組みにつきましてご報告申し上げます。



代表取締役社長 いしだ まさあき
石田 雅昭

当第2四半期累計期間の業績

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響や急激な円高などにより厳しい状況となりました。当社の主要顧客におきましては、震災の影響による投資計画の見直しがありましたものの、半導体や電池などの好調市場や電子部品・電子機器および自動車関連メーカーにおける設備投資が堅調に推移いたしました。

こうした状況の中、当社は国内では好調市場において販売拡大を図るとともに、省エネタイプの新製品を市場投入し既存顧客の買い替えを促進いたしました。また、海外では中国やアジア新興国を中心に営業活動を強化いたしました。こうした結果、受注高・売上高はともに前年同期比で増加し、利益面につきましては、固定費の増加などがありましたが、原価率の改善や海外子会社の収益向上などにより営業利益は前年同期比で増加し、四半期純利益は為替差損や有価証券評価損などの影響により減少いたしました。

	前第2四半期累計 【第58期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	15,101	16,303	8.0
売 上 高	12,916	14,306	10.8
営 業 利 益	550	569	3.4
経 常 利 益	680	636	△6.6
四半期純利益	776	521	△32.8

連結業績

経営戦略・施策の進捗

当社グループは、基本方針「強い商品づくりと強い工場づくり」のもと、付加価値の高い競争力のある商品を生み出すとともに、設計・調達・製造といった工場機能を再強化することにより、メーカーとしての基本能力の向上を目指しております。

当第2四半期累計期間におきましては、省エネなどの顧客ニーズに対応した新製品を市場投入するとともに、カスタマイズ対応力の大幅な向上を目的に設計・生産の両面から根本的な見直しを図り、また、営業とサービスの連携による顧客対応力の強化に取り組んでまいりました。海外につきましては、拡大する中国・アジア市場において顧客接点の強化と新規顧客開拓を推進いたしました。新たな事業領域への取り組みとしましては、二次電池や太陽電池に関連するエナジーデバイス装置事業の拡大と植物工場事業の認知度向上に努めてまいりました。

株主のみなさまへの利益還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識しております。

中間配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

エスペック中期経営計画「プログレッシブ プラン2013」の策定

当社はこのたび2011年度から2013年度までの3ヵ年の中期経営計画を策定いたしましたので、その概要についてご紹介いたします。

PROGRESSIVE PLAN 2013

プログレッシブな考動により、
活力あふれるエスペックに復活する！

計画実施期間 2011年度～2013年度

中期基本方針

『グリーンイノベーションを
絶好のビジネスチャンスととらえ、
“攻めの経営”に徹する！』

連結業績目標

売上高	400 億円以上
営業利益	32 億円以上
営業利益率	8% 以上

中期基本方針と連結業績目標

近年、グリーンテクノロジー、中でも発電・蓄電・電力制御という分野は、まさに成長期を迎えています。また、低炭素社会の実現に向けた技術革新である「グリーンイノベーション」が世界各国の国家戦略に組み込まれ、巨大な投資機会が出現しようとしています。当社にとってグリーンイノベーションに関連する新たな開発や設備投資が増えることは、当社製品へのニーズが高まる絶好の機会であると考えております。

私たちは『グリーンイノベーションを絶好のビジネスチャンスととらえ、“攻めの経営”に徹する』ことを中期基本方針とし、「プログレッシブな考動により、活力あふれるエスペックに復活」すべくグループ一丸となって取り組んでまいります。

連結業績目標につきましては、2013年度に「売上高400億円以上、営業利益32億円以上、営業利益率8%以上」を目指してまいります。

中期経営方針

方針1

グリーンテクノロジー市場での成長加速

- 環境・エネルギー分野の技術革新へ対応した製品開発を加速する
- EV(電気自動車)・HEV(ハイブリッド自動車)用二次電池への取り組みを加速する

単体 グリーンテクノロジー市場 売上高2013年度60億円以上
(単体エナジーデバイス装置 売上高2013年度19億円以上)

※グリーンテクノロジー市場：二次電池、太陽電池、パワー半導体、LED市場

方針2

中国・アジアを中心とした海外事業拡大

- 中国・アジア市場拡大に沿って開発・生産・販売体制を強化する
- グループ製品連携によって“複線型製品ライン”を構築
- グローバルカスタマーへの密着を目指して販売・サービス機能の連携を強化する

連結 海外売上高 2013年度105億円以上

経営資源の投入

方針3

国内市場の深耕による収益力の強化

- 商品力、カスタマイズ力の強化によって新たなニーズに対応する
- 3社合併による合理化および顧客対応力の強化による買い替え促進を行う
- 植物工場事業の育成によって事業領域を拡大する

一人当たり売上高 2013年度1.4倍以上(2010年度比)

※3社合併：子会社2社(エスベックエンジニアリング(株)・エスベックテストセンター(株))との合併

方針4

「機能改革」と「プロセス改革」による経営と事業活動のスピードアップ

方針5

時代に適した「マネジメント」と「制度改革」によるプロフェッショナルな人材の育成と達成感・やりがいの醸成

方針1：グリーンテクノロジー市場での成長加速

二次電池、太陽電池、パワー半導体などの関連する「グリーンテクノロジー市場」は、成長・発展する段階にあり、今後様々なニーズが生まれ、当社のビジネスチャンスが拡大すると考えております。

- 当社のコア技術を効果的に組合せ、独自性の高い装置やシステムを商品化してまいります。
- 開発・評価分野には、先端ニーズにお応えする装置を投入し、生産・検査分野には顧客の課題を先取りした商品を提案してまいります。
- 市場での認知度向上を図るとともに開発投資を行うことにより、事業を拡大してまいります。

方針2：中国・アジアを中心とした海外事業拡大

中国・アジアを海外重点市場と位置付けております。

- 海外グループ会社の生産能力・販売力を強化するとともに、技術移転を推進してまいります。
- 海外顧客のニーズに対応した商品を日本で開発し、海外グループ会社へ展開してまいります。
- ハイコォリティで新規ニーズに適合する日本製品と価格競争力のある海外グループ会社製品との複線型製品ラインを確立し、アジアの需要を獲得してまいります。
- グループ会社の販売・サービスの連携を強化し顧客のグローバル展開をサポートしてまいります。

方針3：国内市場の深耕による収益力の強化

国内市場はすでに成熟期を迎えておりますが、向こう10年間は成長戦略を支える収益基盤として磐石なものにしていきたいと思います。

- 『高い環境性能とハイパフォーマンスの両立』を共通のコンセプトとして主要商品のモデルチェンジを推進してまいります。これにより、競争力を強化するとともに買い替えを促進してまいります。
- 「外カスタム・内標準」をコンセプトに『カスタマイズ対応力を強化』してまいります。顧客(外)には「カスタム」仕様、当社(内)では「標準」モジュールの組み合わせとして対応できるように設計・生産の体制を構築することで、顧客ニーズに、より早く・安く対応してまいります。

- 『ソリューションの提供力を強化』するために、受託試験やアフターサービスなどの新規メニューを開発し、製品に融合させることにより顧客価値を高めてまいります。また、ネットワーク関連製品をラインナップし、商品のシステム化も進めてまいります。
- 3社合併のメリットを活かして販売・サービスの効率を大幅に向上させるとともに、顧客接点を強化し、ニーズの収集能力を強化してまいります。これを含めて、営業生産性の大幅な向上を図るとともに『顧客対応力を強化』してまいります。

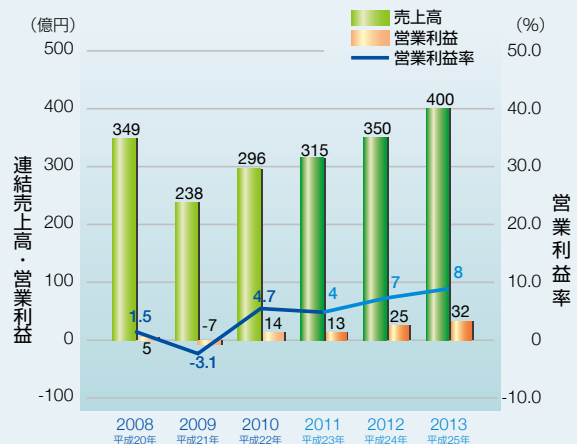
業績の推移と年度別の業績目標数値

こちらは、2008年度から2010年度までの業績の推移と2011年度から2013年度までの業績目標数値です。

2011年度は、売上高315億円以上、営業利益13億円、営業利益率4%以上

2012年度は、売上高350億円以上、営業利益25億円、営業利益率7%以上を目指してまいります。

連結売上高・営業利益(率)



次世代の国際標準器「恒温恒湿器プラチナスJシリーズ」の発売

昭和36年、当社は日本で初めて環境試験器を開発し、昭和44年には後に環境試験器の国際標準器となる恒温恒湿器「プラチナスシリーズ」を発売しました。その後8度のモデルチェンジを行い、時代とともに進化してまいりました。そして、平成23年10月、日本初の環境試験器誕生から50年を経て、次世代の国際標準器となる恒温恒湿器「プラチナスJシリーズ」を新たに発売しました。

コンセプト

“Japan”の“J”を冠した「プラチナスJシリーズ」。日本ならではの「ハイクオリティ」と「カスタマイズ」の両方を徹底的に追及しました。その実現のために設計のあり方やモノづくりを根本から見直し、変えるべきものはすべて変更し、変えてはいけないものには頑なにこだわりました。

主な特長

● 消費電力量を大幅に削減

新たに開発した冷凍制御技術などにより、前モデルであるKシリーズとの比較で運転時消費電力量を最大70%*削減しています。

※PL-3J：85℃/85%rh時における当社従来器との比較

● カスタマイズ容易性・拡張性を大幅に向上

多様化するニーズに、より“早く”“安く”対応するため、設計・生産のあり方を見直し、設計・製造工数の削減などにより納期短縮と低価格化を実現しました。

● ネットワーク通信機能等により操作性を向上

LANポート・USBポートを装備し、プログラムの編集や遠隔地からの操作・モニタリングなどが可能です。異常時のメール通報機能やバックトレース機能なども搭載しています。

● 国際安全規格に対応

国際試験規格IECや欧州連合EMC指令、機械指令、圧力指令に適合しています。



恒温恒湿器「プラチナスJシリーズ」

植物工場見学会の開催

平成23年9月、植物工場に興味をお持ちの方や導入を検討されている方々を対象に、当事業所の宇都宮テクノコンプレックスにおいて植物工場の見学会を2日間で計3回開催しました。見学会には、貨物輸送用のコンテナに人工光源や空調設備などをユニット化して装備した「コンテナ式植物工場」と、販促・ディスプレイ用として飲食店などに設置できるコンパクトな野菜育成装置「プラントセラー」を用意しました。また、植物工場の市場動向や現状の課題、当社の納入事例などについても説明し、植物工場への理解を深めていただきました。



概要説明の様子



コンテナ式植物工場



プラントセラー

「エスベックみどりの学校」の活動

当社は「エスベックみどりの学校」として、ゴーヤを用いた「みどりのカーテン」普及活動を推進しています。今年度は、ゴーヤ苗の植え付けや成長後の「みどりのカーテン」の効果測定を行う講義を計12回開催しました。また、普及活動のリーダーを育てる「ゴーヤ先生養成セミナー」も計3回開催し、これらの講義に総勢700名の方々にご参加いただきました。6月には、気仙沼市立小原木小学校内の仮設住宅においても、入居者のみなさまや小原木小学校生徒のみなさまに「みどりのカーテン」について楽しく学んでいただきました。

当社は、今後も「みどりの学校」の取り組みを積極的に推進し、地球環境の保全に少しでも貢献していきたいと考えております。



植付後

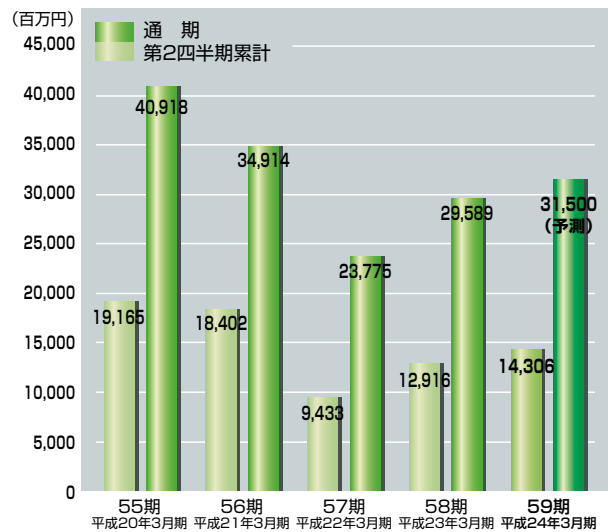


成長後

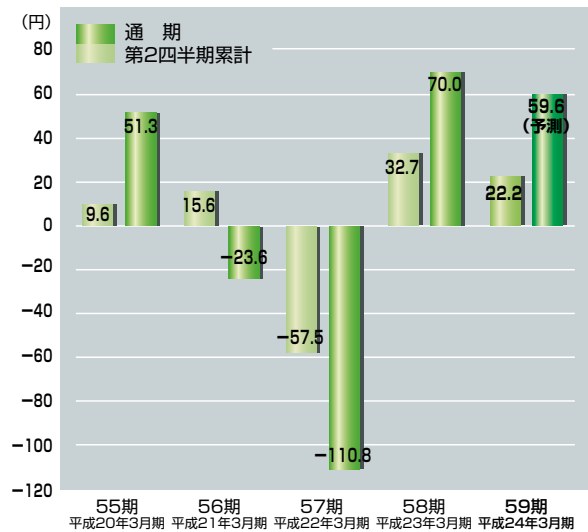
気仙沼市 仮設住宅の「みどりのカーテン」

連結業績の推移

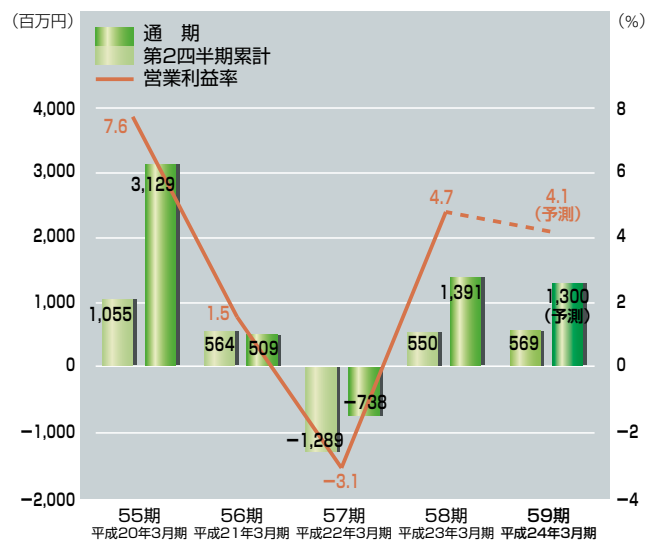
売上高



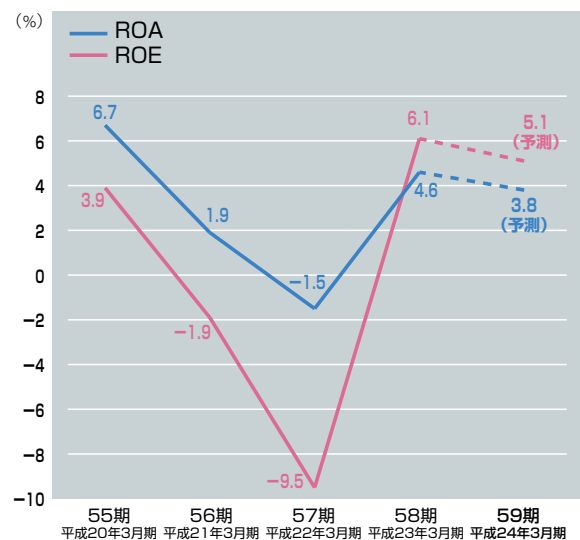
1株あたり当期純利益



営業利益／営業利益率



総資産経常利益率(ROA) 自己資本利益率(ROE)



装置事業

■ 事業内容

自動車・電気電子機器・通信機器などの電子部品において、温度や湿度、その他環境因子による影響を試験する環境試験器を提供しています。また、カスタム仕様製品として、半導体検査工程におけるバーンイン装置や、半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、液晶などのFPDの生産ラインにおける熱処理装置・検査装置、電池を主とした新エネルギー関連のエネルギーデバイス装置などを提供しています。

■ 業績の状況

環境試験器につきましては、国内市場においては、電池関連をはじめとする好調市場や研究開発用途に向けて恒温恒湿室やカスタム機器の販売を強化し、海外市場では、中国を中心としたアジア新興国において新規顧客の開拓などに注力してまいりました。こうした結果、受注高・売上高ともに前年同期比で大幅に増加し、期初計画を上回りました。半導体関連装置につきましては、前期から好調であった半導体メーカー向けのバーンイン装置が第1四半期までは堅調に推移し、受注高・売上高ともに期初計画を上回りましたが、前年同期比では減少しました。

FPD関連装置につきましては、台湾や国内のメーカー向けに小型液晶パネル用のクリーンオープンを受注したことにより、受注高は前年同期比で大幅に増加しました。売上高は、受注案件の多くを下期に売上計上する予定であるため、前年同期比で減少しました。

エネルギーデバイス装置につきましては、第1四半期は子会社のエスベックテクノ株式会社において二次電池検査装置が堅調に推移しましたが、第2四半期ではエスベック本体で取り組む二次電池製造装置が受注に至らず低調に終わったため、受注高・売上高ともに期初計画には届きませんでした。こうした結果、装置事業全体では、受注高は前年同期比で11.6%増加し13,392百万円、売上高は12.6%増加し11,585百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加や原価率の改善などにより前年同期比で18.4%増加し513百万円となりました。

	前第2四半期累計 【第58期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	11,996	13,392	11.6
売 上 高	10,284	11,585	12.6
営業利益	433	513	18.4

サービス事業

事業内容

製品のアフターサービスやエンジニアリング、試験を代行する受託試験、製品レンタルなどのさまざまなサービスを提供しています。

業績の状況

アフターサービス・エンジニアリングにつきましては、営業部門とサービス部門との連携を強化して既納品の省エネ改作や保守契約を提案してまいりました。受注高は震災の影響などにより前年同期比で減少しましたが、売上高は前期受注残もあり増加しました。

受託試験・レンタルにつきましては、主要顧客である自動車関連メーカーからの受注が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前年同期比で増加しました。こうした結果、サービス事業全体では、受注高は前年同期比で0.4%減少し2,699百万円となりましたが、売上高は7.1%増加し2,486百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加などにより前年同期比で34.9%増加し198百万円となりました。

	前第2四半期累計 【第58期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	2,711	2,699	△0.4
売 上 高	2,322	2,486	7.1
営業利益	147	198	34.9

その他事業

事業内容

森づくりや水辺づくり、都市緑化などの環境エンジニアリング事業や、野菜育成装置などを提供する植物工場事業を行っています。

業績の状況

環境エンジニアリング事業につきましては、震災の影響などで官公庁や顧客の予算が凍結されたことにより低調に推移し、受注高・売上高ともに前年同期比で減少しました。

植物工場事業におきましても、震災の影響などにより受注高・売上高ともに前年同期比で減少しました。

こうした結果、その他事業全体では、受注高は前年同期比で40.9%減少し273百万円、売上高は23.9%減少し290百万円となりました。利益面につきましては、143百万円の営業損失となりました。

	前第2四半期累計 【第58期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	463	273	△40.9
売 上 高	381	290	△23.9
営業損失	△32	△143	—

要 約 財 務 諸 表 (連 結)

四半期連結貸借対照表

科 目	前第2四半期末 平成22年9月30日	当第2四半期末 平成23年9月30日	前期末 平成23年3月31日
資産の部			
流動資産	23,921	25,601	26,666
現金及び預金	7,287	7,862	8,511
受取手形及び売掛金	9,462	10,074	12,090
有価証券	2,801	2,300	1,300
商品及び製品	259	331	225
仕掛品	1,545	1,825	1,527
原材料及び貯蔵品	989	1,006	1,039
その他	1,589	2,211	1,982
貸倒引当金	△ 13	△ 10	△ 11
固定資産	11,469	11,128	11,239
有形固定資産	8,334	8,253	8,230
建物及び構築物(純額)	3,318	3,146	3,166
土地	4,424	4,412	4,413
その他(純額)	592	694	650
無形固定資産	326	253	285
投資その他の資産	2,808	2,621	2,723
1 資産合計	35,390	36,730	37,905

(注)有形固定資産の減価償却累計額 前第2四半期末 9,234百万円 当第2四半期末 9,358百万円 前期末 9,319百万円

- 1** 総資産は36,730百万円で、前期末と比べ1,175百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金の減少649百万円、受取手形及び売掛金の減少2,015百万円、有価証券の増加1,000百万円、仕掛品の増加297百万円、その他流動資産の増加228百万円などによるものです。

(百万円)

科 目	前第2四半期末 平成22年9月30日	当第2四半期末 平成23年9月30日	前期末 平成23年3月31日
負債の部			
流動負債	6,548	7,126	8,535
支払手形及び買掛金	4,537	4,452	5,654
短期借入金	250	11	210
賞与引当金	216	360	366
製品保証引当金	141	151	188
その他	1,402	2,151	2,116
固定負債	1,809	1,762	1,789
長期借入金	188	161	168
退職給付引当金	55	27	42
その他	1,565	1,573	1,579
2 負債合計	8,357	8,889	10,325
純資産の部			
株主資本	28,549	29,446	29,160
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172	7,172
利益剰余金	14,534	15,580	15,294
自己株式	△ 53	△ 202	△ 202
その他の包括利益累計額	△ 1,682	△ 1,790	△ 1,734
その他有価証券評価差額金	23	103	166
繰延ヘッジ損益	△ 5	△ 4	△ 5
土地再評価差額金	△ 826	△ 828	△ 828
為替換算調整勘定	△ 873	△ 1,060	△ 1,067
少数株主持分	166	184	155
3 純資産合計	27,033	27,840	27,580
負債純資産合計	35,390	36,730	37,905

- 2** 負債は8,889百万円で前期末と比べ1,435百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少1,201百万円、短期借入金の減少198百万円などによるものです。

- 3** 純資産は27,840百万円で前期末と比べ260百万円の増加となり、その主な要因は利益剰余金の増加286百万円などによるものです。

四半期連結損益計算書

(百万円)

科 目	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
売上高	12,916	14,306	29,589
売上原価	8,792	9,529	20,370
売上総利益	4,124	4,776	9,219
販売費及び一般管理費	3,574	4,207	7,827
4 営業利益	550	569	1,391
営業外収益	184	168	357
営業外費用	54	101	64
5 経常利益	680	636	1,683
特別利益	38	20	63
特別損失	62	90	85
税金等調整前四半期(当期)純利益	656	566	1,661
法人税、住民税及び事業税	△ 122	17	△ 12
少数株主利益	3	27	19
6 四半期(当期)純利益	776	521	1,654

4 営業利益は、固定費の増加などがありましたが、原価率の改善や海外子会社の収益向上などにより前年同期比で3.4%増加し、569百万円となりました。

5 経常利益は、円高による為替差損などの影響により前年同期比で6.6%減少し、636百万円となりました。

6 四半期純利益は、株式市場の落ち込みによる有価証券評価損などの影響により前年同期比で32.8%減少し、521百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	656	566	1,661
減価償却費	371	347	712
売上債権の増減額(△は増加)	381	2,020	△ 2,353
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 669	△ 471	△ 842
仕入債務の増減額(△は減少)	636	△ 1,203	1,823
その他	△ 523	△ 218	131
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	852	1,041	1,133
投資活動によるキャッシュ・フロー			
信託受益権の取得による支出	△ 965	△ 1,047	△ 2,219
信託受益権の償還による収入	899	1,347	1,957
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 66	△ 82	△ 157
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	0	1
投資有価証券の取得による支出	△ 2	△ 0	△ 2
その他	52	17	190
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 80	234	△ 230
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	330	—	630
短期借入金の返済による支出	△ 260	△ 200	△ 600
長期借入金の返済による支出	△ 5	△ 5	△ 10
配当金の支払額	△ 71	△ 232	△ 188
その他	△ 4	△ 18	△ 157
9 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11	△ 456	△ 327
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 43	1	△ 130
現金及び現金同等物の増減額	716	821	444
現金及び現金同等物の期首残高	9,374	9,819	9,374
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	10,091	10,640	9,819

7 税金等調整前四半期純利益や減価償却費、売上債権の減少などにより、1,041百万円の資金の増加となりました。

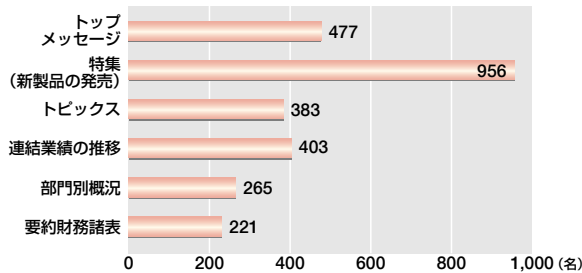
8 信託受益権の取得や償還などにより、234百万円の資金の増加となりました。

9 短期借入金の返済や配当金の支払額などにより、456百万円の資金の減少となりました。

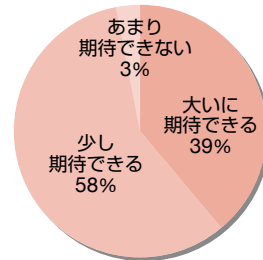
株主アンケート結果のご報告

第58期株主通信のアンケートでは大変多くの株主さまからご回答をいただきました。
ご協力いただきましたみなさまに厚くお礼申し上げます。
いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えております。
ここに、その集計結果とお寄せいただきましたご意見の一部をご紹介します。

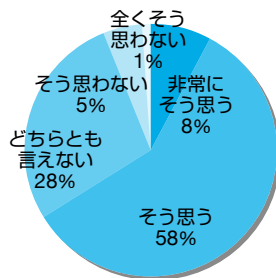
興味を持った内容



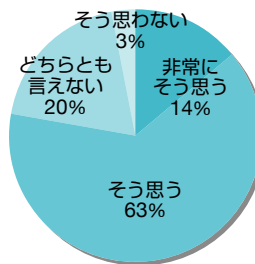
特集「新製品」への期待



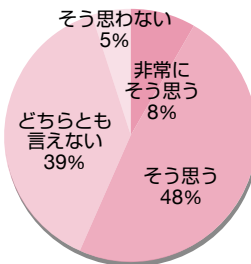
当社に対するイメージ



安定性がある



成長性がある



グローバル企業である

株主さまからの声

グローバル展開を積極的に進めてほしい。

中期経営計画において、「中国・アジアを中心とした海外事業拡大」を成長戦略の一つとして掲げております。海外市場での開発・生産・販売体制を強化し、収益拡大を目指してまいります。

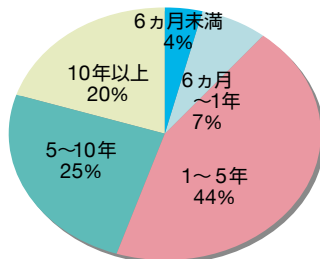
(中期経営計画については、本誌P3～5をご参照ください)

省エネ製品の開発に期待している。

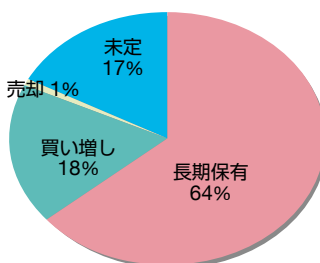
省エネなど「環境性能の向上」を製品開発の共通コンセプトとしており、昨年度より大幅な省エネを実現した製品を発売しております。今後も顧客ニーズに合致した開発を進めてまいります。

(最新の省エネ製品については、本誌P6をご参照ください)

当社株式の保有期間



当社株式の投資スタンス



アンケート送付総数 **6,077名**

ご回答数 **1,485名**
(男性:75% 女性:25%)

返却率 **24.4%**

「みどりの学校」の活動がすばらしい。

当社は環境活動を企業の社会的責任の一つと認識しており、「みどりの学校」では今年度もさまざまな活動を行っております。今後も取り組みを継続し、社会貢献に努めてまいります。

(今年度の取り組みについては、本誌P7をご参照ください)

ホームページのご案内

当社ホームページのIRサイトでは、財務・業績データや株式情報に加え、決算説明会資料をはじめとする各種IRツールをご覧いただけます。また、より利便性の高いホームページになるよう継続的に改善に努めており、日興アイ・アール主催の「2010年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」では、4年連続「最優秀サイト」に認定されました。2011年8月には、財務・業績情報の充実や、最新のIR情報を掲載するスペースをトップページに新設するなど、情報の充実とわかりやすさの向上を図りました。みなさまのアクセスをお待ちしております。



IRサイト

<http://www.espec.co.jp/>
エスベック株式会社 ホームページ

会社の概要（平成23年9月30日現在）

社 名 エスペック株式会社
 英 文 社 名 ESPEC CORP.
 創 業 昭和22年7月25日
 設 立 昭和29年1月13日
 資 本 金 6,895百万円
 従 業 員 数 1,324(連結) 866名(単独)
 U R L <http://www.espec.co.jp/>
 投資家情報ページ
<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

主 な 事 業 所

本 社 大阪市北区天神橋3丁目5番6号
 営 業 拠 点 首都圏オフィス・仙台・熊谷・名古屋
 大阪・広島・福岡
 工場その他事業所 福知山・宇都宮・神戸

子会社および
関 連 会 社

エスペックテクノ株式会社
 エスペック九州株式会社
 エスペックミック株式会社
 株式会社ミックファーム大口
 ESPEC NORTH AMERICA, INC.
 ESPEC EUROPE GmbH
 上海愛斯佩克環境設備有限公司
 広州愛斯佩克環境儀器有限公司
 愛斯佩克環境儀器（上海）有限公司
 愛斯佩克測試科技（上海）有限公司
 ESPEC (CHINA) LTD.
 ESPEC KOREA CORP.
 ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN.BHD.

役員（平成23年9月30日現在）

代表取締役社長 石 田 雅 昭
 代 表 取 締 役 進 信 義
 常 務 取 締 役 檜 作 榮四郎
 常 務 取 締 役 廣 信 義
 取 締 役 島 田 種 雄
 取 締 役 石 井 邦 和
 取 締 役 桶 谷 馨
 取 締 役 志 関 誠 男
 常 勤 監 査 役 松 南 雅 己
 常 勤 監 査 役 村 上 充
 監 査 役 松 村 安 之
 監 査 役 村 瀬 一 郎

(注)

1. 取締役 志関誠男氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 松村安之氏および村瀬一郎氏は、社外監査役であります。

名 誉 会 長 小 山 栄 一

株 式 の 状 況 ・ 株 主 メ モ

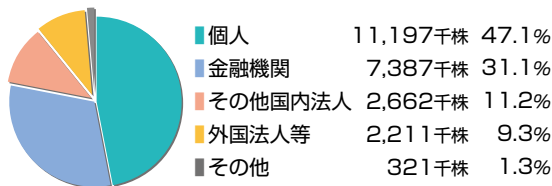
株式の状況（平成23年9月30日現在）

会社が発行する株式の総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 23,460,492株
 （自己株式320,902株を除く）
 株主数 6,249名

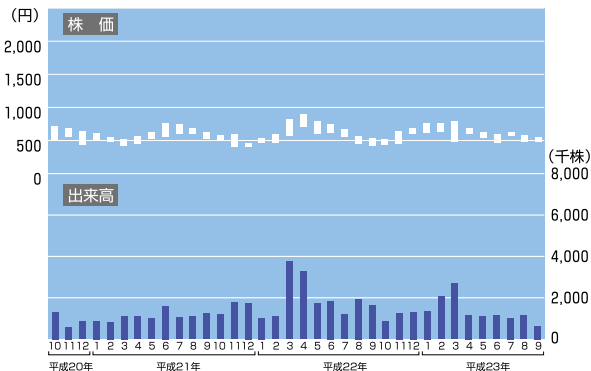
大株主

株 主 名	持株数 千株	出資比率 %
エスベック取引先持株会	1,566	6.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,310	5.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,203	5.05
日本生命保険相互会社	929	3.91
エスベック従業員持株会	727	3.06
株式会社みずほコーポレート銀行	713	3.00
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	442	1.86

所有者別分布状況



株価・出来高の推移



株主メモ

決 算 期 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
中間配当制度 有
基 準 日 3月31日および取締役会決議によってあらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所 東京・大阪証券取引所（証券コード：6859）
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先 〒168-8507
 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先 0210-288-324
取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
 みずほインベスターズ証券株式会社
 本店および全国各支店
公 告 方 法 電子公告
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。
<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/>
お 問 合 せ 先 エスベック株式会社
 総務人事部 総務グループ
 Tel:06-6358-8820 Fax:06-6358-5500
 e-mail:ir-div@espec.co.jp

証券コード:6859

エスペック株式会社

